

過去の受賞作

	小 説 部 門(下段:佳作)	研 究 ・ 評 論 部 門
第1回 (H4)	鬼内仙次「灯籠流し」 笠井佐智子「鳳凰木の花咲く街にて」 藤谷怜子「諏訪久によろしく」	牟礼慶子『鮎川信夫—路上のたましい』 栗原敦『宮澤賢治—透明な軌道の上から』
第2回 (H5)	横山充男「帰郷」 入江和生「冬の動物園」 市原千尋「伝説郎の鱗」	谷川恵一『言葉のゆくえ—明治二〇年代の文学—』 林淑美『中野重治 連続する転向』
第3回 (H6)	李優蘭「川べりの家族」 牛山初美「水のレクイエム」	目崎徳衛『南城三餘集私抄』 中島国彦『近代文学にみる感受性』
第4回 (H7)	宝生房子「光の中へ消えた大お婆あちゃん」 難波田節子「居酒屋『やなぎ』」	酒井憲二『甲陽軍鑑大成』全四巻 宮岸泰治『木下順二論』
第5回 (H8)	村野温「対馬—こころの島—」 依田茂夫「花嫁の父」 藤田千鶴「思いでの家」	菅野昭正『永井荷風巡歴』 細谷博『凡常の発見 漱石・谷崎・太宰』
第6回 (H9)	田村加寿子「わたしの牧歌」 大野俊郎「ていんさぐぬ花」 清津郷子「ガーデナーの家族」	内田道雄『内田百閒—「冥途」の周辺』 関礼子『語る女たちの時代 一葉と明治女性表現』
第7回 (H10)	大野俊郎「たびんちゅ」 楠本洋子「小春日和」 樋口範子「はんこ屋の女房」	亀井秀雄・松木博『朝天虹ヲ吐ク—志賀重昂「在札幌農学校第貳年期中日記」』 松下裕『評伝中野重治』
第8回 (H11)	飯倉章「旅の果て」 荒川吟子「鏡餅」 谷本美彌子「小春日和」	高田衛『女と蛇—表徴の江戸文学誌』 関口安義『芥川龍之介とその時代』
第9回 (H12)	鬼丸智彦「桑の村」 山岸昭枝「雪と火の祭り」 吉村登「木ニナル」	伊藤博之『西行・芭蕉の詩学』 相馬庸郎『深沢七郎 この面妖なる魅力』
第10回 (H13)	横瀬信子「優しい雲」 根本幸江「抜け道」 山田たかし「別れの谷」	東郷克美『太宰治という物語』 兵藤裕己『〈声〉の国民国家・日本』
第11回 (H14)	なし 吉田文彦「自転車」 秋元朔「紙人形」	清水孝純『笑いのユートピア『吾輩は猫である』の世界』 山崎一穎『森鷗外・歴史文学研究』
第12回 (H15)	尾木沢響子「ミクウさん」 秋元朔「父の外套」 手塚和美「代書屋」	ジャン＝ジャック・オリガス『物と眼—明治文学論集』 花崎育代『大岡昇平研究』
第13回 (H16)	冬野良「少年と父親」 米川忠臣「秋桜の迷路」 深沢晶子「親友」	勝又浩『中島敦の遍歴』 宗像和重『投書家時代の森鷗外 草創期活字メディアを舞台に』
第14回 (H17)	深沢勝彦「六道橋」 吉澤薫「となりのピアニスト」 宮川顕二「ハンザキ」	三枝昂之『昭和短歌の精神史』 坪井秀人『戦争の記憶をさかのぼる』
第15回 (H18)	井岡道子「父のグッド・バイ」 もりおみずき「湧水」 白坂愛「珈琲牛乳」	瀬尾育生『戦争詩論1910-1945』 長谷川郁夫『美酒と革囊 第一書房 長谷川巳之吉』
第16回 (H19)	秋元朔「家族ごっこ」 早川ゆい「梨の木」 齊藤洋大「家に帰ろう」	高橋英夫『音楽が聞える—詩人たちの楽興のとき』 西田耕三『主人公の誕生 中世から近世小説へ』
第17回 (H20)	柳原隆「日向の王子」 小川栄「密かな名人戦」 宇梶紀夫「けんちん汁」	関肇『新聞小説の時代 メディア・読者・メロドラマ』 松本章男『西行 その歌 その生涯』
第18回 (H21)	大橋紘子「恩寵」 棚初「佇立する影」 冬川文子「額紫陽花の花」	揖斐高『近世文学の境界—個我と表現の変容』 紅野謙介『検閲と文学 1920年代の攻防』
第19回 (H22)	宮野晶「真空管式」 井野登志子「風の行く先」 冬川文子「お魚にエサをあげてね」	戸松泉『複数のテキストへ 樋口一葉と草稿研究』 齋藤希史『漢文スタイル』
第20回 (H23)	朝田武史「祝人伝」 阪野陽花「嵐の前に」 齊藤朋「狐提灯」	藤田真一『蕪村余響 そののちいまだ年くれず』 金子幸代『鷗外と近代劇』
第21回 (H24)	美里敏則「探骨」 美杉しげり「瑠璃」 大城貞俊「別れていどいちゆる」	安藤宏『近代小説の表現機構』 鷲只雄『評伝 壺井 栄』
第22回 (H25)	池田茂光「山を祭る人々」 逸見真由「餅」 高梨ぼこ「ふわっとした穴」	高田知波『姓と性 近代文学における名前とジェンダー』 齋藤慎爾『周五郎伝 虚空巡礼』
第23回 (H26)	石黒佐近「山峡」 広田文世「縁故節現世考」 尾木直子「宇宙ステーション」	奥武則『ジョン・レディ・ブラック 近代日本ジャーナリズムの先駆者』 品田悦一『斎藤茂吉 異形の短歌』
第24回 (H27)	山本淳子「彩りの郷にて」 真野光一「風の町」 原雪絵「山霊観音」	高橋修『明治の翻訳ディスクリュー—坪内逍遙・森田思軒・若松賤子』 川平敏文『徒然草の十七世紀—近世文芸思潮の形成』
第25回 (H28)	大山ちこ「エンディングノート」 鈴木篤夫「菓子折り」 小池映二「まいべえら」	吉田昌志『泉鏡花素描』 福嶋亮太『厄介な遺産 日本近代文学と演劇的想像力』
第26回 (H29)	松井十四季「同調とバランス」 三井多和「逕をゆく」 一條瑛里「春泥」	大橋毅彦『昭和文学の上海体験』 石原千秋『漱石と日本の近代』(上)・(下)
第27回 (H30)	足立絵莉「ログアウト」 福島敏真「息子」 大和マヤ「バースデイケーキ」	鈴木俊幸『近世読者とそのゆくえ 読書と書籍流通の近世・近代』 山本芳明『漱石の家計簿 お金で読み解く生活と作品』
第28回 (R1)	崎浜 慎「梵字碑にザリガニ」 松本昂幸「鷹を飼う」 和泉真矢子「スーパームーン」	服部徹也『はじまりの漱石『文学論』と初期創作の生成』 河野龍也『佐藤春夫と大正日本の感性—「物語」を超えて』
第29回 (R2)	田村修宏「銀ぎつね」 加藤日出美「河童のいた日々」 秋野淳平「カップ酒」	井上隆史『暴流の人 三島由紀夫』 山田俊治『福地桜痴 無駄トスル所ノ者ハ実ハ開明ノ麗華ナリ』
第30回 (R3)	杉森仁香「夏影は残る」 齊藤 勝「この世の果て」 一色秀秋「誤配」	十重田裕一『横光利一と近代メディア 震災から占領まで』